

## 中国版楽観・悲観性尺度の作成ならびに信頼性と妥当性の検討

筑波大学大学院人間総合科学研究科 張 琚

筑波大学人間系 外山 美樹

Development of a Chinese Optimism and Pessimism Scale and an examination of its reliability and validity

Jun Zhang (*Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba*)

Miki Toyama (*Faculty of Human Sciences, University of Tsukuba*)

The purpose of this study is to construct a bi-dimensional measure of optimism and pessimism, called the Chinese Optimism and Pessimism Scale (C-OPS), and to examine its reliability and validity. The participants were Chinese college students. The results reveal that C-OPS had sufficient reliability and validity. Confirmatory factor analysis provided evidence for the superiority of a two-factor model where optimism and pessimism constitute separate, but correlated, dimensions. Moreover, optimism is differentially linked with the fundamental dimensions of personality and mood. Optimism is predominantly related to positive affect. In contrast, pessimism is principally associated with neuroticism and negative affect.

**Key words:** the Chinese Optimism and Pessimism Scale (C-OPS), optimism, pessimism

近年、人の精神病理や障害ばかりでなく、ポジティブな人間の機能に焦点を当てるといってポジティブ心理学が注目されるようになってきた(島井, 2006)。そのうち、ポジティブ心理学の核心的な概念としての特性的楽観性が海外で精力的に研究されている。

特性的楽観性(以下、楽観性)は“将来へのポジティブな結果を予測する傾向”、特性的悲観性(以下、悲観性)は“将来へのネガティブな結果を予測する傾向”と定義される(Scheier & Carver, 1985)。これまで、楽観性が精神的健康に関連することが多くの研究によって示されてきた。例えば、乳がんの患者において、治療の初期の楽観性は、治療の初期の精神的状態の影響をコントロールしても数年後の抑うつと有意な負の関連、生活の質(QOL)と有意な正の関連が見られた(Carver, Smith, Derhagopian, Antoni, Petronis, & Weiss, 2005)。

また、楽観性は精神的健康のみではなく、身体的健康にもポジティブな影響を与えることが指摘され

ている。例えば、Kivimäki, Vahtera, Elovainio, HeLenius, Singh-Manoux, & Pentti (2005)は従業員(平均年齢=44.8歳)を対象にして、楽観性の高い人は家族の病気や死亡などのネガティブなイベントを体験しても、病気休暇が少なく、その後、通常の仕事に戻るのが早いことを見いだした。さらに、3年後における楽観性の再検査信頼性は高かった( $r=.60$ )。よって、この結果は、楽観性がパーソナリティとして時間的安定性を持っていることを示している。

ところで、特性的楽観性を測定するために、Scheier & Carver (1985)はLOT (Life Orientation Test)を開発した。その後、Scheier, Carver, & Bridges (1994)はLOTにおいて、楽観性の定義からずれる2つの項目を削除し、LOTの改訂版であるLOT-R (The Revised Life Orientation Test)を作成した。LOT-Rは3つのフィラー項目を含む9項目から構成されている。楽観性は6つの項目から成るが、うち3項目は逆転項目となっている。項目の

得点が高いほど、楽観性が高いことを意味する。これまで、LOTあるいはLOT-Rは楽観性を測定する尺度として、広く世界で用いられている。

ところが、楽観性と悲観性が単次元の両極に位置する概念であることを前提としているLOTとLOT-Rに対して、Marshall, Wortman, Kusulas, Hervig, & Vickers (1992)は、楽観性と悲観性は別々に部分的に独立した2つの次元で捉えるべきであると主張した。LOTに対して主因子法ならびにPromax回転による因子分析を行ったところ、2因子が抽出され、8項目の全分散の53%を説明できた。“悲観性”の因子は“私はものごとが自分の思い通りにいくとはほとんど思っていない”などの4つのネガティブな項目（すなわち、逆転項目）が高い負荷量を示し、“楽観性”の因子は“はっきりしないときでも、ふだん私は最も良いことを期待している”などの4つのポジティブな項目が高い負荷量を示している。また、確認的因子分析を行った結果、1次元モデルより、2次元モデルのほうが適合度が高かったことが示された。さらに、楽観性は外向性ならびにポジティブ感情と正の関連、悲観性は神経症傾向ならびにネガティブ感情と正の関連が示された。

その後、楽観性と悲観性を別々に測定できるように、Chang, Maydeu-Olivares, & D’Zurilla (1997)はLOTの拡大版であるELOT (Expand Life Orientation Test)を作成した。ELOTは、楽観性に関する6つの項目と悲観性に関する9つの項目の計15項目から構成されている。Chang et al. (1997)は悲観性は、ポジティブ感情とネガティブ感情および楽観性の影響をコントロールした後でも、抑うつと有意な関連が見られることを報告した。一方、楽観性は、ポジティブ感情とネガティブ感情および悲観性の影響をコントロールした後では、抑うつと有意な関連が見られなかった。これらの結果より、Chang et al. (1997)は、抑うつを説明するのは楽観性ではなく、悲観性であることを指摘した。

こうした知見を踏まえて、近年、楽観性と悲観性を2次元で捉えた研究が増えてきており、楽観性と悲観性が精神的健康において異なる役割を果たしていることが明らかになっている。Pinquart, Fröhlich, & Silbereisen (2007)は乳がんと診断された患者において、楽観性と悲観性を説明変数とし、感情のバランスを目的変数とするパネル調査を行った。感情のバランスが高いほど、ポジティブ感情をより多く体験し、ネガティブ感情をより少なく体験することを意味している。その結果、悲観性は9ヶ月後の感情バランスと有意な負の関連が見られたが、楽観性

は9ヶ月後感情バランスと有意な関連が見られなかった。

楽観性と悲観性を別々に測定できるELOTは有用であるが、外山 (2013)はELOTには楽観性と悲観性の定義から外れる項目が含まれており、さらに、楽観性と悲観性の項目数が異なるという問題点を指摘している。これらの問題点を考慮し、外山 (2013)は楽観性と悲観性を2次元で捉える日本版“楽観・悲観性尺度”を作成し、楽観性および悲観性と精神的健康との関連を検討した。その結果、楽観性尺度はCronbachの $\alpha$ 係数が.92、悲観性尺度はCronbachの $\alpha$ 係数が.90という高い内的整合性を示した。また、3ヶ月における両尺度の再検査信頼性は楽観性尺度が.81、悲観性尺度が.85であった。加えて、悲観性の影響を制御した楽観性は“幸福感”と“充実感”という精神的健康のポジティブな側面と有意な正の関連が示されたが、一方、楽観性の影響を統制した悲観性は“抑うつ・不安”と“無気力”という精神的健康のネガティブな側面と有意な正の関連があることが示された。これらのことから、日本版“楽観・悲観性尺度”は楽観性と悲観性の独自の機能を検討することにおいて、有用な尺度であることが実証された。

中国では、楽観性についての研究が2001年以降に多く行われてきた。LOT-Rの中国版も作成されているが、LOT-Rの中国版は内的整合性 (Cronbachの $\alpha$ 係数) があまり高くないことが一貫して報告されている。例えば、Lai & Yue (2000)で.50、Liu & Yu (2009)で.58、Jiang & Zhang (2009)で.68であった。また、LOT-Rに対して確認的因子分析を行ったところ、1因子のモデルより、2因子のモデルの適合度のほうが高かったことが示されている (Lai & Yue, 2000; Liu & Yu, 2009)。さらに、楽観性と悲観性の相関はLiu & Yu (2009)で-.21、Lai & Yue (2000)で-.12、Jiang & Zhang (2009)で-.27という低い値が得られている。これらの結果より、楽観性と悲観性を2次元的に捉えたほうが妥当であると考えられる。

また、比較文化的研究において、東洋人は西洋人より楽観性と悲観性を別々のものとして考えやすいことが示唆されている。たとえば、アメリカ系の白人学生 ( $r = -.83$ ) はアメリカ系のアジア人 ( $r = -.61$ ) より、楽観性と悲観性の間の相関が高かったことが報告されている (Chang, 1996)。事実、先述した通り、中国では楽観性と悲観性の相関が低かったことが示され、中国人は楽観性と悲観性の両方の特性を備え持つ可能性もあることが考えられる。しかしながら、中国では、楽観性と悲観性を独

立した2次元で捉えられる尺度は筆者らの知る限りでは存在しない。

そこで、本研究では、日本版“楽観・悲観性尺度”（外山，2013）を中国語に翻訳した楽観・悲観性尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することを目的とする。中国版楽観・悲観性尺度の基準関連妥当性を検討するにあたっては、先行研究を参考にし、既存のLOT-Rに加えて、ポジティブ、ネガティブ感情尺度、外向性尺度と神経症傾向尺度及び絶望感尺度を用いることにする。既述した通り、楽観性はポジティブ感情、外向性と正の関連性を示し、悲観性はネガティブ感情、神経症傾向と正の関連性を示すことが報告されている（Cheng & Hamid, 1997）。よって、本研究においても、先行研究と一致した関連が予測される。また、絶望感は“将来へのネガティブな期待”と定義され（Beck, Weissman, Lester, & Trexler, 1974）、悲観性と正の相関関係が予測される。

## 方 法

### 調査時期

調査時期は、2012年12月（Sample1）と2013年3月（Sample2）であった。

### 調査協力者

Sample1は中国の上海にあるA大学の大学生と大学院生150名（男性48名，女性102名）であった。Sample2は中国の同大学の大学生と大学院生89名（男性21名，女性65名，不明3名）であった。調査協力者名のうち、回答した項目が全体の項目の半分以下であった2名と、回答に顕著な矛盾が認められた3名を分析から除いた。最終的に、239名（男性69名，女性167名，平均的年齢=21.02歳，SD=2.17）を分析対象とし、欠損値はリストごとに除外して分析を行った。なお、Sample1には上記で述べた基準関連妥当性を検討する尺度を実施し、Sample2には、約2週間後の再検査にも参加してもらった。

### 実施手続き

大学での授業後に、第一著者によって集合調査形式で実施された。調査協力を依頼する際には、“このアンケートは、あなたが自分の現在または将来に対しての考え方を、お聞きするものです。このアンケートは、授業の成績等には一切関係がありません。また、正しい答えはありませんので、思った通りにお答えください。このアンケートへの回答は、

自由です。回答を拒否したり、アンケートを中止したりしても、みなさんが不利益を受けることはありませんし、回答内容によって皆さんが不利益をこうむることは一切ありません。”と質問紙の表紙に明記し、口頭でも説明した。また、質問項目への回答をもって、調査協力に同意したとみなすことを表紙に明記し、口頭でも説明した。実施時間は説明も含めて20分程度であった。回答はいずれも無記名で行われた。

### 質問紙

質問紙は以下の6つの尺度で構成されていた。

#### 1. 中国版楽観・悲観性尺度

日本語と中国語の2ヶ国語が堪能な中国人留学生1名が日本版楽観・悲観性尺度の20項目をそれぞれ中国語に翻訳した。その後、翻訳に関与していない他の中国人留学生2名が、中国語に翻訳された楽観・悲観性尺度項目を日本語に再翻訳した。そして、再翻訳した日本語の項目内容について、日本語を母国語とする心理専攻の大学院生2名がバック・トランスレーションを確認し、内容に相違が見られるものについて、修正を行って中国版楽観・悲観性尺度の項目を作成した。楽観性を測定する10項目と悲観性を測定する10項目によって構成されている。4件法（1=まったくあてはまらない，2=あてはまらない，3=あてはまる，4=よくあてはまる）で回答を求めた。項目内容を付録に示した。

#### 2. PANAS (Positive and Negative Affect Schedule) の中国版

Watson, Clark, & Tellegen (1988) が作成したPANAS (Positive and Negative Affect Schedule) の中国版 (Huang, 2003) を使用した。ポジティブ感情とネガティブ感情が各10項目の計20項目から構成されている。最近の感情に該当する程度について、5件法（1=まったくあてはまらない，2=あてはまらない，3=どちらでもない，4=あてはまる，5=よくあてはまる）で回答を求めた。

#### 3. 絶望感尺度

Beck et al. (1974) が開発した絶望感尺度の中国版 (Kong, Zhang, Jia, & Zhou, 2007) を使用した。20項目から成っている。4件法（1=まったくあてはまらない，2=あてはまらない，3=あてはまる，4=よくあてはまる）で回答を求めた。得点が高いほど、絶望感が高いことを意味する。

#### 4. 外向性尺度

Eysenck, Eysenck, & Barrett (1985) が開発したEPQ-RS (Eysenck Personality Questionnaire-Revised Short Scale) の中国版 (Qian, 2000) の外向性下位尺度を使用した。12項目で構成されてい

1) Sample2には、Sample1の調査協力者は含まれていない。

る。4件法(1=まったくあてはまらない, 2=あてはまらない, 3=あてはまる, 4=よくあてはまる)で回答を求めた。項目得点が高いほど、外向性が高いことを表す。

### 5. 神経症傾向尺度

Eysenck et al. (1985)が開発したEPQ-RS (Eysenck Personality Questionnaire-Revised Short Scale)の中国版(Qian, 2000)の神経症傾向の下位尺度を使用した。12項目から構成されている。4件法(1=まったくあてはまらない, 2=あてはまらない, 3=あてはまる, 4=よくあてはまる)で回答を求めた。項目得点が高いほど、神経症傾向が高いことを表す。

### 6. 既存の楽観(悲観)性尺度

既存の楽観(悲観)性尺度として、Scheier et al. (1994)によって作成されたLOT-Rの中国版(Liu, 2009)を使用した。本研究では、LOT-R尺度のうち3つのフィラー項目を除いた楽観性を測定する6項目のみを使用した。5件法(1=まったくあてはまらない, 2=あてはまらない, 3=どちらでもない, 4=あてはまる, 5=よくあてはまる)で回答を求めた。得点が高いほど楽観性が高いことを意味する。

## 結 果

### 中国版楽観・悲観性尺度の信頼性の検討

楽観性・悲観性尺度においてCronbachの $\alpha$ 係数を算出したところ、楽観性尺度で.92、悲観性尺度で.91と高く、満足し得る内的整合性が認められた。また、2週間後における二つの尺度の再検査信頼性係数( $r$ )を求めたところ、楽観性尺度が.82、悲観性尺度が.88と高く、時間的安定性が示された。

### 中国版楽観・悲観性尺度因子的妥当性の検証

中国版楽観・悲観性尺度について確認的因子分析を行った(Figure 1)。楽観・悲観性尺度20項目を用いた確認的因子分析は、1因子モデル、2因子モデルともにモデルの適合度が悪かったため、外山(2013)の結果に基づき、因子負荷量が高かった楽観性の項目4項目(項目番号, 1, 3, 7, 9)と悲観性の項目4項目(項目番号, 12, 14, 18, 20)を用いて検討した。その結果、1因子を仮定したモデル( $\chi^2(20) = 251.622(p = .000)$ , GFI = .729, AGFI = .513, RMSEA = .220, AIC = 283.622)よりも、2因子斜交モデル( $\chi^2(19) = 41.143(p = .002)$ , GFI = .959, AGFI = .921, RMSEA = .070, AIC = 75.143)のほうがモデルの適合度は高かった。よって、楽観・悲観性尺度は、因子間相関を仮定した楽観性と悲観性の2因子を有することが確認された。

### 基準関連妥当性の検証

楽観性尺度と悲観性尺度の基準関連妥当性を検証するために、基準変数との相関係数を算出した(Table 1)。その結果、楽観性は既存のLOT-R( $r = .58, p < .01$ )、ポジティブ感情( $r = .43, p < .01$ )および外向性( $r = .52, p < .01$ )と有意な正の相関が見られた。また、ネガティブ感情( $r = -.42, p < .01$ )、絶望感( $r = -.69, p < .01$ )および神経症傾向( $r = -.30, p < .01$ )と有意な負の相関が示された。

悲観性は絶望感( $r = .74, p < .01$ )、ネガティブ感情( $r = .52, p < .01$ )および神経症傾向( $r = .43, p < .01$ )と有意な正の相関が見られた。また、ポジティブ感情( $r = -.39, p < .01$ )、外向性( $r = -.51, p < .01$ )および既存のLOT-R( $r = -.55, p < .01$ )と有意な負の相関が示された。これらの結果は先行研究の結果と一致しており、二つの尺度は基準関連妥当性を有していると判断された。

次に、悲観性あるいは楽観性の影響を互いに制御し、楽観性あるいは悲観性との相関係数(偏相関係数)を求めた(Table 1)。悲観性の影響を制御した楽観性は、既存のLOT-R( $pr = .21, p < .05$ )、ポジティブ感情( $pr = .20, p < .05$ )と正の関連が見られ、ネガティブ感情( $pr = .06, n.s.$ )、外向性( $pr = .16, n.s.$ )、絶望感( $pr = -.16, n.s.$ )、神経症傾向( $pr = .12, n.s.$ )との間には有意な関連が見られなかった。

一方、楽観性の影響を制御した悲観性は、絶望感( $pr = .39, p < .01$ )、ネガティブ感情( $pr = .34, p < .01$ )および神経症傾向( $pr = .32, p < .01$ )と有意な正の関連があり、ポジティブな感情( $pr = -.04, n.s.$ )、外向性( $pr = -.16, n.s.$ )、既存のLOT-R( $pr = -.16, n.s.$ )とは有意な関連が見られなかった。これらの結果より、楽観性と悲観性の間には-.73という高い負の相関が得られたが、楽観性と悲観性は異なる意味と役割を持つ概念であると捉えた方が妥当であると考えられた。

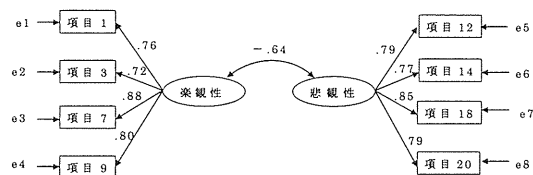


Figure 1. 楽観・悲観性尺度の確認的因子分析結果

注1)  $\chi^2(19) = 41.143(p = .002)$ , GFI = .959, AGFI = .921, RMSEA = .070, AIC = 75.143.

Table 1  
各尺度間の相関係数ならびに偏相関係数

	$\alpha$ 係数	楽観性		悲観性	
		$r$	$pr$	$r$	$pr$
ポジティブ感情	.89	.43 **	.20 *	-.39 **	-.04
ネガティブ感情	.84	-.42 **	.06	.52 **	.34 **
絶望感	.86	-.69 **	-.16	.74 **	.39 **
神経症傾向	.89	-.30 **	.12	.43 **	.32 **
外向性	.89	.52 **	.16	-.51 **	-.16
LOT-R	.73	.58 **	.21 *	-.55 **	-.16

注1) \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$   $n = 147$ .

注2)  $r$  は相関係数を,  $pr$  は偏相関係数を示す。

注3) 楽観性 (悲観性) と各尺度の偏相関係数は, 悲観性 (楽観性) を統制した。

## 考 察

本研究では、日本版楽観・悲観性尺度を中国語に翻訳して中国版楽観・悲観性尺度を作成し、その尺度の信頼性と妥当性を検討することを目的とした。

中国版楽観・悲観性尺度のうち、楽観性と悲観性の2つの下位尺度のCronbachの $\alpha$ 係数がそれぞれ.92, .91であった。2週間後における二つの尺度の再検査信頼性係数( $r$ )は楽観性尺度が.82, 悲観性尺度が.88であった。また、悲観性の影響をコントロールした後では、楽観性はポジティブ感情と有意な正の関連性を持っていた。一方、楽観性の影響をコントロールした後では、悲観性はネガティブ感情と有意な正の関連性を持っていた。以上の結果より、中国版楽観・悲観性は楽観性と悲観性を独立した2次元で捉える尺度として、高い信頼性と妥当性を備えたものであることが確認された。

また、楽観性と悲観性が単一次元で捉えた方がいいか、それとも、別々に部分的に独立した2次元で捉えた方がいいかという問題を検討するために、確認的因子分析を行った。その結果、1因子モデルより楽観性と悲観性の相関を仮定した2因子モデルのほうが当てはまりが良かった。よって、中国人を対象にして、楽観性と悲観性を2次元で捉えるほうが妥当である可能性が示された。これらの結果はLOT-Rを因子分析した中国における先行研究の結果と一致している。

ところで、本研究では、楽観性と悲観性の相関( $r = -.73$ )は先行研究の値より高かった。Chang (1996) はアメリカ系の東洋人を対象として、ELOTを実施し、両尺度の相関が $-.61$ であったと報告した。ただし、Chang (1996) の研究において、調査対象者としてのアメリカ系のアジア人は、10年以上アメリカに住んだ人が含まれ、アジア人母集団

を代表するかが疑問視されている(Chang, 2000)。外山(2013)は、日本人を対象として、楽観性と悲観性の間には $-.70$ という、やはり高い相関を報告している。

ところで、楽観性と悲観性の関連は、ストレス状態からの影響を受ける可能性が示されている(Robinson-Whelen, Kim, MacCallum, & Kiecolt-Glaser, 1997)。長期的なストレスに曝された看護師の女性( $r = -.61$ )は、非看護師の女性( $r = -.23$ )より楽観性と悲観性の相関が高かったことがわかった。これらの結果より、ストレス状態にある人間は頭に浮かんだ特定なストレスに基づいて、LOTの項目に回答したため、このストレスフルな状態がこれから好転するか、または、悪くなるかという特定の期待を表す可能性が高いと考えられている。本研究では、楽観性と悲観性の間には高い関連が示されたのは、調査に協力した大学生のほとんどは期末試験の前であったため、ストレスフルな状態にあった可能性も考えられる。しかし、これらの可能性は推測の域を超えず、東洋人の楽観性と悲観性の関連性については、今後、さらに検討する必要性があろう。

これまで、欧米人を対象にした研究において、楽観性と悲観性が精神的健康に異なる役割を果たしていることが示されてきた。しかし、東洋人を対象とした研究に関しては、楽観性と悲観性を2次元的に捉える研究そのものが少なかった(Chang, 1996)。外山(2013)は日本人において、楽観性ではなく、悲観性が抑うつや無気力といった精神的健康と関連することを報告した。しかし、中国では、楽観性と悲観性を2次元で捉え、精神的健康との関連を検討する研究はほとんどない。今後、本研究で作成した中国版楽観・悲観性尺度を使用し、中国人を対象にして、楽観性と悲観性が精神的健康にどのように影

響を与えるかを詳細に検討することが必要となる。  
くる。

### 引用文献

- Beck, A. T., Weissman, A., Lester, D., & Trexler, L. (1974). The measurement of pessimism: The Hopelessness Scale. *Journal of Consulting and Clinical Psychology, 42*, 861-865.
- Carver, C. S., Smith, R. G., Derhagopian, R.P., Antoni, M. H., Petronis, V. M., & Weiss, S. (2005). Optimistic personality and psychosocial well-being during treatment predict psychosocial well-being among long-term survivors of breast cancer. *Health Psychology, 24*, 508-516.
- Chang, E. C. (1996). Cultural differences in optimism, pessimism, and coping: Predictors of subsequent adjustment in Asian American and Caucasian American college students. *Journal of Counseling Psychology, 43*, 113-123.
- Chang, E. C. (2000). Cultural influences on optimism and pessimism: Differences in western and eastern construals of the self. In E.C.Chang(Ed.), *Optimism & Pessimism: Implications for theory, research, and practice*. Washington, DC: American Psychological Association.
- Chang, E. C., Maydeu-Olivares, A., & D'Zurilla, T. J. (1997). Optimism and pessimism as partially independent constructs: Relationship to positive and negative affectivity and psychological well-being. *Personality and Individual Differences, 23*, 433-440.
- Cheng, S. T., & Hamid, P. N. (1997). Dispositional optimism in Chinese people: What does the Life Orientation Test measure. *International Journal of Psychology, 32*, 15-22.
- Eysenck, S. B., Eysenck, H. K., & Barrett, P. (1985). A revised version of the Psychoticism scale. *Personality and Individual Differences, 6*, 21-29.
- 黄麗 (2003). 中国版 PANAS (Positive and Negative Affect Scale) 張作記 (監) 冯学全・李功迎・蘇中華・陳宏・陳景清・林立・戚厚興 行為医学量表手冊 中華医学会 pp.236-237. (Huang, L.)
- 姜婷娜・張寧 (2008). 大学生樂觀性, 対処方略と健康との関連 南京師範大学修士論文 (in Chinese) (Jiang, T. N., & Zhang, N.)
- Kivimäki, M., Vahtera, J., Elovainio, M., Helenius, H., Singh-Manoux, A., & Pentti, J. (2005). Optimism and pessimism as predictors of change in health after death or onset of severe illness in family. *Health Psychology, 24*, 413-421.
- 孔媛媛・張傑・賈樹華・周莉 (2007). 青年における絶望感尺度の信頼性と妥当性 中国心理衛生雑誌, 21, 32-33. (Kong, Y. Y., Zhang, J., Jia, S. H., & Zhou, L. (2007). Reliability and Validity of the Beck Hopelessness Scale for Adolescent. *Chinese Mental Health Journal, 21*, 32-33.)
- Lai, J. C. L., & Yue, X. (2000). Measuring optimism in Hong Kong and mainland Chinese with the revised Life Orientation Test. *Personality and Individual Differences, 28*, 781-796.
- 劉瑜・余欣欣 (2009). 大学生の樂觀性, ソーシャルサポート, コーピング方略が抑うつとの関連 広西師範大学修士論文 (in Chinese) (Liu, Y., & Yu, X. X.)
- Marshall, G. N., Wortman, C. B., Kusulas, J. W., Hervig, L. K., & Vickers, R. R., Jr. (1992). Distinguishing optimism from pessimism: Relations to fundamental dimensions of mood and personality. *Journal of Personality and Social Psychology, 62*, 1067-1074.
- Pinquart, M., Fröhlich, C., & Silbereisen, R. K. (2007). Optimism, pessimism, and change of psychological well-being in cancer patients. *Psychology, Health & Medicine, 12*, 421-432.
- 錢銘怡 (2000). 中国版 EPQ-R Short Scale 張作記 (監) 冯学全・李功迎・蘇中華・陳宏・陳景清・林立・戚厚興 行為医学量表手冊 中華医学会 pp.36-37. (Qian, M. Y.)
- Robinson-Whelen, S., Kim, C., MacCallum, R. C., & Kiecolt-Glaser, J. K. (1997). Distinguishing optimism from pessimism in older adults: Is it more important to be optimistic or not to be pessimistic. *Journal of Personality and Social Psychology, 73*, 1345-1353.
- Scheier, M. F., & Carver, C. S. (1985). Optimism, coping, and health: Assessment and implications of generalized outcome expectancies. *Health Psychology, 4*, 219-247.
- Scheier, M. F., Carver, C. S., & Bridges, M. W. (1994). Distinguishing optimism from neuroticism (and trait anxiety, self-mastery, and self-esteem): A reevaluation of the Life Orientation Test. *Journal of Personality and Social Psychology, 67*,

1063-1078.  
 島井哲志 (2006). ポジティブ心理学入門 ナカニ  
 シヤ出版 (Shimai, S. S.)  
 外山美樹 (2013). 楽観・悲観性尺度の作成ならび  
 に信頼性・妥当性の検討 心理学研究, 84,  
 印刷中  
 (Toyama, M. K. (2013). Development of the  
 Japanese Optimism and Pessimism Scale, and a

test of its reliability and validity. *The Japanese  
 Journal of Psychology*, 84, in press.)

Watson, D., Clark, L. A., & Tellegen, A. (1988). De-  
 velopment and validation of brief measures of  
 positive and negative affect: The PANAS Scales.  
*Journal of Personality and Social Psychology*, 54,  
 1063-1070.

(受稿 3 月 29 日 : 受理 5 月 8 日)

## 付 録

### 中国版「楽観・悲観性尺度」項目内容

#### 楽観性

- 1 认为自己的将来会有好事情发生
- 3 认为将来会变得幸福
- 5 我对未来抱有积极的考虑
- 7 认为自己的将来会有好运
- 9 对自己的未来充满希望
- 11 认为自己今后的人生会变得美好
- 13 在结果不能预测的时候，会朝着好的方向期待
- 15 认为在我的身上，比其坏的事情，好的事情会发生
- 17 在着手做某事的时候，认为自己会成功
- 19 对自己的未来抱有期待

#### 悲観性

- 2 认为自己的将来是灰暗的
- 4 总是想象在未来不理想的自己
- 6 认为事情只会往坏的方向发展
- 8 认为自己的愿望不能实现
- 10 对自己的未来感到绝望
- 12 计划做某事的时候，脑海里总会浮现自己失败的样子
- 14 不管做任何的事情，总会想象不能顺利地进行
- 16 认为最终自己的目标不能达成
- 18 一想到今后，脑海里总是会浮现坏的事情
- 20 在着手做某事的时候，认为自己会失败